



みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）

ブリリアンス Next Stage 第9号

～ありのままに今を輝く～

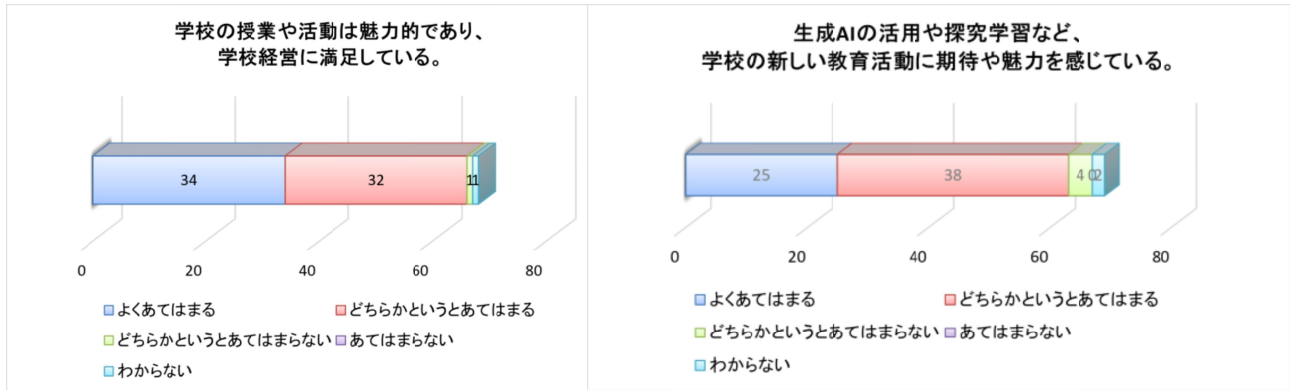
江東区立南砂中学校だより



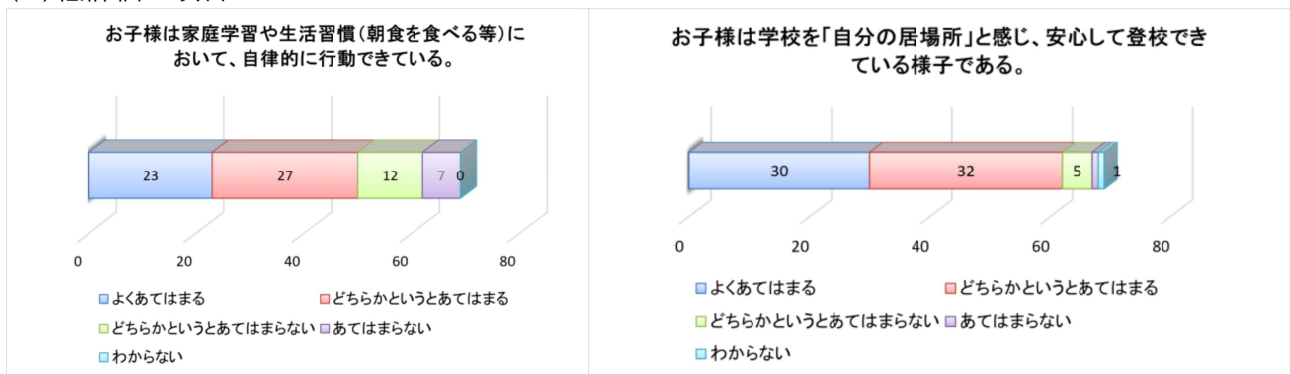
校 長 近藤 啓太

学校評価(中間)アンケートから 《保護者その1》

(1) 高評価の項目



(2) 低評価の項目



アンケートでは肯定的な高い期待をいただいた一方、「AIへの依存や正誤判断への懸念」「授業の質」「辞書やノートなどアナログな学びの重要性」など貴重なご意見もいただきました。

生成AIの急速な普及が人類にとって真に望ましいことなのか否かについては、専門家の間でも意見が分かれます。思考力の低下は私も危惧しています。「AIが人類滅ぼす『プランD』」と題した新聞記事もありました(8月25日朝日新聞一面)。莫大な電力や水の消費も大きな問題です。

インターネットがここまで発達した現在、それに派生する技術を手放し、引き返すのは無理でしょう。せめて、変化の激しいこれからの時代を生きる子どもたちにとって、AI等の新しいテクノロジーと適切に向き合い、主体的に使いこなす力を身につける指導を行うことは、現代の学校教育における重要な役割の一つであると考えます。

本校では、次のような視点で取り組んでいます。

1. 正しい活用のための倫理・ルール教育の実施

- ・全校朝会や外部講師による3時間の指導を通じ、安全な活用と倫理観の育成に努めています。

2. 「思考や技能を高めるための道具」としての活用

- ・生成AIに単に「正解」を求めたり、AIに頼り切ったりするような活用は禁止します。
- ・自分の不得意・苦手な部分を補うツールとして、あるいは理解不足な分野の復習や語学の練習相手など、「自身の能力や学習を高めるための伴走者・道具」としての活用を奨励します。

3. アナログな学び(教科書・紙と鉛筆・対話)の徹底

- ・デジタルツールやAIはあくまで学びを深めるための「 $+\alpha$ 」の手段であり、動画を流すだけの授業を行うことはありません。
- ・教師による丁寧な説明や対話、子どもたちの好奇心を引き出す授業作りを基本とします。
辞書を引くこと、紙のノートに自分の考えをしっかりと書くことといった、デジタルとアナログのバランスを大切にしたい教育活動を推進します。

「ちゃんと生きる」ということ ～生徒へのメッセージ～

夏休みが終わりました。教員生活の後半21年間を「夏休み終わりは24日」で過ごした私には、とても長く感じました。その分、研修(学び)の時間、振り返る時間、「人、本、旅」の時間にすることができました。

皆さんの中には、ベッドの中で「あと5分…いや、あと1カ月くらい寝ていたい」と思った人、いますよね？安心してください。先生たちも、9月1日を迎えるまでに「よし、学校に行くぞ！」と自分を奮い立たせるための儀式をそれぞれ行ってきたはずです。久しぶりに友達に会えてワクワクしている人もいれば、なんだか気が重い人、誰にも言えない悩みを抱えたまま校門を通過した人もいるかもしれません。

でも、ひとつ覚えておいてほしいことがあります。

「悩んでいる」ということは、あなたが「成長していない」のではなく、「自分の生き方を考えている」証拠です。

心理学者の東畑開人さんの著書に、こんな言葉があります。

ちゃんと生きるとは、時々死んで、その都度新しく生まれることです。

(※驚かせてごめんなさい。当然ですが、命がなくなることはありません！)

ここでいう「死ぬ」というのは、**古い自分を喪失すること、古い物語を終わらせること、それが、新しい物語をつくる力になります。**ある時、これまでの自分の考え方や「こうじゃなきゃいけない！」と抱え込んでいたルールが、うまくいかなくなったり変わったりします。

「前はもっと器用にできたのに」「友達との距離感が変わっちゃったな」

「自分は何がしたいのか、急にわからなくなった」「努力してるのに、なんだか空回りする」

そんな時、「自分ってダメだな」と思いがちです。スマホの画面でいうと「ぐるぐるマーク(ローディング中)」がずっと消えない状態です。

でも、それはあなたが故障したわけではありません。今までの自分というOS(システム)では限界がきたから、新しい自分へ「バージョンアップ」しようとしている最中なのです。裏で一懸命新しいデータを読み込んでいるからなのです。中学生という時期は、自分が何者なのか、何を大切にしたいのかを、少しずつ見つけていくアップデートの連続です。

迷っていい。悩んでいい。立ち止まっていい。昨日までと、今日の自分が違っていいのです。

人はずっと同じではられません。

友達関係が変わる。好きなものが変わる。得意なことが変わる。将来の夢が変わる。自分自身についての考え方も変わる。

そのたびに、少しずつ「新しい自分」になっていけばいい。

だから、夏休み明けの、完璧な自分で学校に来る必要はありません。ありのままのあなたで大丈夫！

悩みを抱えたままでもいい。自信がなくてもいい。まだ答えが見つかっていなくてもいい。

大切なのは、悩みながらも一歩ずつ進んでいくこと。そして、ひとりで抱え込まないこと。

学校は、何でもできるパーフェクトな人だけが来る場所ではありません。

迷っている人も、失敗した人も、悩んでいる人も、昨日とは少し違う自分になろうとしている人も、みんながここにいていい場所です。

(東畑開人著 『カウンセリングとは何か』 から一部引用、大部分参考にしました)

荒浜小学校の教訓から学ぶ、本当の「危機管理」



先日、校長会の研修旅行で震災遺構の仙台市立荒浜小学校を訪れました。震災当時、校舎の2階まで押し寄せた大津波から、児童や地域住民約320名が屋上に避難して難を逃れた学校です。

当時の校長先生から、児童や住民の避難行動、屋上からヘリコプターで一人一人を吊り上げ翌朝までかけて救助されるまでの緊迫した状況、そして先生たちが手分けして避難所を巡り、児童の安否確認に奔走したお話を伺いました。

特に胸に突き刺さったのは、「実際の災害では、訓練通りの資材が使えず、常備していた備蓄品も全く足りなかった」というお話です。危機管理とは、用意された計画をなぞることではありません。「想定外」の事態に直面したとき、命を守るためにどう判断し、どう動くか。



荒浜小学校の教訓を胸に、本校でも形式的な訓練ではなく、いざという時に子どもたちの命を確実に守り抜くための、実効性のある防災体制づくりを進めてまいります。



津波が襲った 3 時 55 分で止まった体育館の時計
偶然にも 3.11 です